

[最新版\(英語版\)はこちら](#)

最終改訂年月 : 24 May 2002

背景: 股関節半置換術の挿入手術は、大腿骨頭部を人工関節と置換する手技で、患者自身の寛骨臼と寛骨臼軟骨は維持される。股関節に人工関節を挿入する主な外科的アプローチは、関節包前側から挿入する“前方法”と関節包の後側から挿入する“後方法”に大別できる。

目的: ランダム化比較試験のエビデンスに基づき、様々な股関節半置換術の外科的挿入アプローチが臨床アウトカムに与える影響を評価する。

検索戦略: Cochrane Musculoskeletal Injuries Groupの特別登録(2002年2月まで)を検索した。あらゆる言語の論文を検討した。

選択基準: 異なる外科的アプローチで股関節半置換術の挿入を比較した全てのランダム化比較試験。

データ収集分析: 2名のレビューアが互いに独立して、10項目スケールを使って試験の質を評価し、データを抽出した。該当する場合、可能ならばデータをグラフで表示する。

主な結果: 114例が参加した1件のランダム化試験を確認した。この試験は方法が不良で(特に選択バイアスの影響を受けやすい)、離脱患者の追跡が不十分であり、結果報告が限定されていた。6か月目から2年目までの医学的な合併症と死亡率は、後方法群で多いと思われた。この死亡率の差は、方法が不良な構成の中で、統計的に有意であった。これ以外の差は有意でなかった。

レビューア見解: 現在、股関節半置換術の最適な外科的挿入アプローチを決定するには、ランダム化試験のエビデンスが足りない。

Citation: Parker MJ, Pervez H. Surgical approaches for inserting hemiarthroplasty of the hip. The Cochrane Database of Systematic Reviews 2002, Issue 3. Art. No.: CD001707. DOI: 10.1002/14651858.CD001707.

Clib issue No.: 2005 issue 4

CRG名: Bone, Joint and Muscle Trauma

* **ご注意:** この日本語訳は、試験的翻訳(Draft翻訳)版として公開するものであり、翻訳の正確さや質が保証されたものではありません。訳語の間違いなどお気づきの点がございましたら、Minds事務局までご連絡下さい。また、この試験的翻訳版はコクラン・ライブラリ2005年issue 4に掲載されたレビュー・アブストラクトの翻訳です。コクラン・ライブラリは年4回改定版が発行されていますので、ご利用に際しては、最新版(英語版)の内容をご確認下さい。